

2025 年度 動物実験部会 自己点検・評価

2025 年度当初計画 〈P〉
学内における適正な動物実験の管理・運営を行うため、以下を当初計画とした。 1) 動物実験部会を開催し、動物実験計画を審査・承認する。 2) 動物実験教育訓練を実施する。 3) 動物供養慰霊祭を実施する。 4) 外部検証（2 回目）の受検に向けた準備を行う。
2025 年度活動概要 〈D〉／点検・評価 〈C〉
1) 動物実験部会の開催ならびに 2023 年度動物実験実施報告の提出依頼を行った。 ①以下のとおり、動物実験部会を開催した。 2026 年 3 月 24 日 第 1 回動物実験部会（メール会議） 1. 動物実験計画書の審査について i) 受付番号 第 26-01 号（継続変更あり） 動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田 一哉教授 研究課題：生化学実験（健康栄養学科 2 年生後期） 研究目的：絶食時および高炭水化物食摂取後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する 動物実験実施者名：健康栄養学科 塩谷一紗助手 実験実施期間：2026 年 9 月～2027 年 1 月 使用動物：ラット（雄）10 匹 【審議結果】 「承認」とした（3 月 27 日）。 ii) 受付番号 第 26-02 号（継続変更あり） 動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田一哉教授 研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析 研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変更機構を解析する。 動物実験実施者名：健康栄養学科 塩谷一紗助手、他学部生 12 名 実験実施期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日 使用動物：ラット（雄）50 匹、マウス（雄）60 匹 【審議結果】 「承認」とした（3 月 27 日）。 iii) 受付番号 第 26-03 号（継続変更あり） 動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 河野 史倫教授 研究課題：個体差発生の生理的要因と形成メカニズム解明 研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影響を与えるのか追求する。また、それらの変化を裏付けるヒストン修飾変化を明らかにするため、遺伝子ノックアウトやノックダウン、薬剤を適宜組み合わせる検討を行う。 動物実験実施者名：健康科学研究科 増澤諒（共同研究員）、柴田和宏、丸山翔、澤口花奈、他学部生 19 名 実験実施期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日 使用動物：ラット（雄・雌）20 匹・マウス（雄・雌）100 匹 【審議結果】 「承認」とした（3 月 27 日）。 iv) 受付番号 第 26-04 号（継続変更あり） 動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 高木 勝広教授 研究課題：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明 研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する

動物実験実施者名：健康栄養学科 渡邊さや、金井大河、古賀涼輔、高山祥子、塚田彩純、他学部生 8 名

実験実施期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

使用動物：ラット（雄）50 匹 マウス（雄）40 匹

【審議結果】

「承認」とした（3 月 31 日）。

2. 動物実験施設管理者の変更について

現管理者の塩谷助手が産休（4 月～9 月の予定）に入るため、下記のとおり変更する。

丸山 翔（まるやま しょう）（本学健康科学研究科・博士後期課程 2 年）*2026 年 4 月 1 日現在

変更期間：2026 年 4 月～9 月予定

【審議結果】

「承認」とした（3 月 27 日）

2026 年 3 月 27 日 第 2 回動物実験部会（メール会議）

i) 受付番号 第 26-05 号（新規）

動物実験責任者：松本大学人間健康学部健康栄養学科 清水 裕晶教授（2026 年 4 月 1 日着任）

研究課題：SMRT が肝臓内レチノイド代謝に及ぼす効果及びその肥満抑制機序の解明と治療応用

研究目的：遺伝子転写抑制因子 SMRT が持つ、レチノイド代謝制御機構と抗肥満作用のメカニズムの解明を目指す

動物実験実施者名：松本大学人間健康学部健康栄養学科 教授 清水裕晶

実験実施期間：2026 年 4 月～2027 年 3 月 31 日

使用動物：マウス（雄）50 匹、マウス（雌）50 匹

※マウスの譲渡に伴い事前の承認が必要となるため、審査を行った。

【審議結果】

「承認」とした（3 月 31 日）。

②2024 年度分の動物実験計画の報告書提出について、2025 年 4 月 16 日付けのメールで告知した。全ての代表者から報告書の提出があり、動物実験が適正実施されてことを確認した。

2) 下記のとおり、動物実験従事者に対して教育訓練を実施した。

2025 年 4 月 14 日 スポーツ健康学科 3 年生および健康科学研究科大学院生

2025 年 10 月 7 日 健康栄養学科 2 年生

3) 2025 年 5 月 21 日に 2025 年度動物供養慰霊祭を実施した。黒川准教授より教員代表挨拶が述べられ、2024 年度も動物実験が適正に管理・実施されたことを報告した。

4) 外部検証（2 回目）の準備について、河野部会長と塩谷助手、事務局担当で協議し進めた。2025 年度は、本学の実験動物飼養保管室にて繁殖を行っている遺伝子組換えマウスについて微生物検査を実施し、SPF（Specific Pathogen Free：特定病原体不在）であることを確認した。また、マウス用ケージの追加購入や古くなった設備品の買い替え、空調設備等の点検を行い、動物飼育環境の整備に努めた。

次年度に向けた課題・方策 〈A〉

2026 年度も引き続き適正な動物実験管理に努める。外部検証（2 回目）の受検準備について、2026 年度は微生物検査を繁殖中の遺伝子組換えマウスの全系統について実施する。新任教員の着任があるため、教員向けの教育訓練を実施し、国内における最新の動向について従事者全体で共有できるようにする。動物実験の実施報告・自己点検などを作成し、大学 HP に掲載する。

執筆担当／部会長 河野 史倫